

夏休みは危険信号

少年の非行防止は 対話のある家庭づくりから

青少年を非行から守る全国強調月間（7/1～7/31）

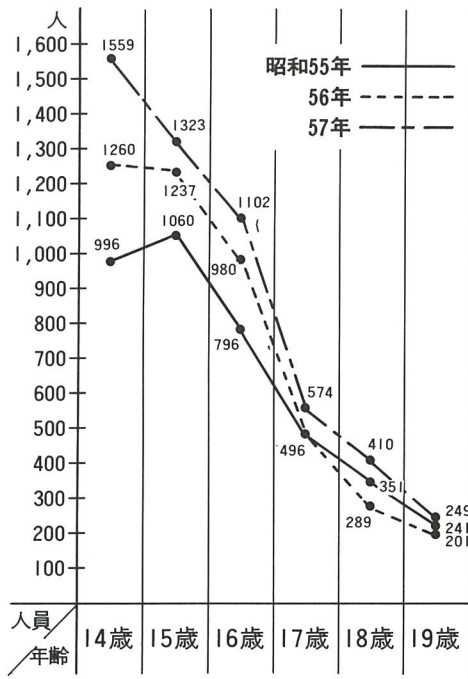
子どもたちが、心身ともに健康でたくましく育ってほしいと思うのは、すべての親の願いです。

ところが、こうした親の気持ちとは裏腹に、年々少年非行が増え続けています。夏休みは、子どもたちの生活のリズムが乱れ、気持ちもゆるみがちで、親の目も届きにくくなります。楽しい夏休みが、一転「非行の季節」にならないように気をつけたいものです。

遊び型非行と低年齢化
十四歳以上二十歳未満の少年が刑法に触れる罪を犯すと、「刑法少年」として補導されます。

少年非行の全国的傾向としていわゆる「遊び型非行」が依然として多く、万引、自転車やオートバイの盗み、シンナー乱用少年の増加が目立ちます。その他では暴走族に見られるようにグループによる不法行為。年齢的には相変わらず十四、十六歳が増えており、少年非行

刑法犯少年年齢別補導人員の推移 (千葉県)



今月は夏休みを前に増加の傾向にある少年非行を取りあげてみました。

少年非行の実態

右記の表は、昭和五十五年から五十七年までの三年間、千葉県内で非行を犯して補導された少年に関する結果です。

グラフでもわかるように非行を犯す年齢が低くなっています。

は低年齢化の一途をたどっています。

これら傾向は、八日市場警察署管内もほぼ同様です。

刑法犯関係の家庭環境をみますと何不自由ない恵まれた家庭の少年の非行が大半を占めます。

わが子の非行に直面したとき、ほとんどの親が「うちの子に限

って…」と絶句することが多いようです。

明るい町づくりに
愛の一言を…

「おはよう」「ありがとう」「しつれいします」「すみません」の言葉を家庭で、職場で、さらには街中に広げてはどうでしょうか。

あたたかい、親しみをこめた一言が、失われがちな人間愛をとりもどし、親と子、上司と部下のキズナ、社会的連帯感を育てることになります。

非行の芽 早いうちに つみとろう

子どもはある日突然非行に走るわけではありません。

小さな風船がだんだんふくらんでほじけるように、徐々に非行への道に深入りしていきます。

その過程でさまざまな非行へのきざしが見られます。そのためには、ふだんから子どもの生活を深く見守りながら、非行の



写真は辻・高橋さん宅の協力

芽を早いうちにつみとってしまふことが肝心です。

子どものどういう言動が非行につながるっていくのか、非行のきざしをいくつかあげてみました。

- 平気でウソをつく
- 服装や髪型をしきりに気にする
- 多額の小遣いを要求する
- なげやりな言葉使いが多くなる。

このようなきざしから子どもの心を読みとり、子どもの中の何が生まれ、どう変わっていくのか、そしてその原因について考え、適切な処置をすることが必要です。